



**新しい  
地域コミュニティづくり  
ガイドブック**  
【協議会設立編】

令和3年3月  
志布志市



# 目次

はじめに .....	1
1 私たちのまちの未来を創る「新しい地域コミュニティ」 .....	2
(1) 「新しい地域コミュニティ」の仕組みについて .....	2
地域コミュニティ協議会の活動例 .....	2
地域コミュニティ協議会とは .....	3
地域コミュニティ協議会の組織イメージ図 .....	3
(2) 地域活動をするうえで大切にしたいこと .....	4
(3) 新しい地域コミュニティの設立により志布志市が目指す姿 .....	5
① 自主、自立の地域づくり .....	5
② 補完性の原則 .....	5
③ 地域分権の推進 .....	5
2 地域コミュニティ協議会設立の流れ .....	6
ステップ1 地域の機運を高めましょう .....	7
① 協議会の設立について、説明を受けましょう .....	7
② 協議会設立について地域の意思をまとめましょう .....	7
ステップ2 準備委員会を立ち上げて話し合しましょう .....	8
① 準備委員会を立ち上げましょう .....	8
② 準備委員会の主な活動内容 .....	9
初会合 .....	10
地域の想いを確認するアンケート .....	11
地域の想いを形にするワークショップ .....	13
地域の将来像の設定 .....	17
地域まちづくり計画の策定 .....	17
組織体制、規約、予算などの検討 .....	19
地域内外への情報発信 .....	22
ステップ3 協議会を立ち上げましょう .....	23
ステップ4 協議会の運営を開始しましょう .....	25
3 志布志市も支援しています .....	26
(1) 人材面の支援 .....	26
(2) 財政面の支援 .....	26
① 組織化に向けた活動支援 .....	26
② 協議会の活動促進交付金 .....	26
③ 協議会設立当初の活動支援 .....	27
(3) 施設面の支援 .....	27
4 資料 .....	28

(1) 地域コミュニティについての国・県の支援制度一覧.....	28
(2) 組織図の例 .....	29
① 通山地区 .....	29
② 新橋地区 .....	29
③ 潤ヶ野地区 .....	30
(3) 規約の例 .....	31

## はじめに

近年、人口減少、少子高齢化、生活スタイルや価値観の変化、情報化の進展など、社会の状況が大きく変わってきており、それに伴い、地域の困りごととも多様化・複雑化してきています。

志布志市では、これまで地域の皆様による様々な自主活動によって地域の振興が図られてきましたが、地域活動の担い手の不足や高齢化などが進んでおり、今後、さらに多様化・複雑化していく地域課題への対応が難しくなることが考えられます。

こうした中で、地域の困りごとをしっかりと解決しながら、志布志市に生まれてよかった、住んでよかったと思えるようなまち、また、市民一人ひとりが誇りの持てるまちにしていくためには、“地域コミュニティ”の力がとても大切です。

“地域コミュニティ”とは、となり近所の方や近くで働いている方、地域でボランティア活動、地域活動、事業活動など様々な活動をしている方などによる、集まりやつながりのことです。

現在、問題なく活動できている地域でも、5年、10年後には地域活動が維持できなくなっているかもしれません。災害時に助け合える関係づくりも重要です。未来を見据え、今のうちに地域のつながりを強め、地域が一丸となって対応できるようにしておく必要があります。

そこで志布志市では、令和3年3月に「志布志市共生・協働の地域づくり指針」を定め、地域力を集め、協働による地域づくりを行う仕組みとして『地域コミュニティ協議会』という新たな組織の設立を、令和3年度からの3年間で推進しています。

このガイドブックは、これから地域コミュニティ協議会の組織づくりをスタートする地域の「どうやって進めるの?」、「何から取り組んだらいいの?」という声にお応えする一冊です。

これまでの地域のしきたりや置かれている環境など、その特性を踏まえて独自に取り組んでいただくことが基本ですが、一つの参考として活用していただければ幸いです。

# 1 私たちのまちの未来を創る「新しい地域コミュニティ」

## (1) 「新しい地域コミュニティ」の仕組みについて

現在、市内の各地域では、校区公民館、自治会、ふるさとづくり委員会、NPO法人、PTAなど目的に応じてさまざまな団体が活動しています。今後、さらに多様化・複雑化していく地域課題に対応するためには、これらの団体の連携を強め、多くの地域の皆さんが話し合っ、自分たちの地域に必要なことを自ら決めて実行できる仕組みが必要だと考えています。

このような「自分たちのふるさとは自分たちで楽しみながら守る」仕組みの中心になっていただきたいのが、『地域コミュニティ協議会』です。

### 地域コミュニティ協議会の活動例

- 地域の魅力や課題を知り、共有する



「通山まちあるき」の様子

- 地域課題解決に必要な活動を実施



八野地区での移動販売

- 地域の目標を話し合って設定する



まちづくり計画についての話し合い

- 地域の情報を発信する



通山地区の情報誌

- 地域内の各種団体との連携
- 地域を代表して、市と連絡調整
- ：

## 地域コミュニティ協議会とは

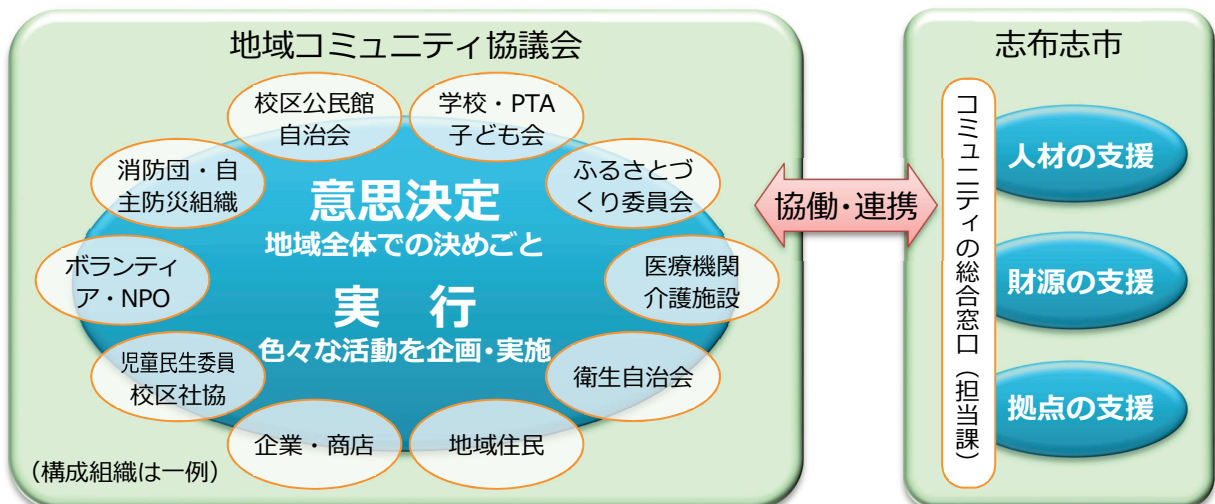
活動範囲：概ね小学校の通学区域内

構成：校区公民館、自治会、ふるさとづくり委員会、NPO法人、PTA等の各種団体、地域住民、学校、民間企業など、活動範囲内で現在活動されている多様な主体

特徴：これまでの校区公民館を中心に、もう一回り大きな枠組みで新たな組織を設立します。地域の実情に合わせて、協議会の中にいくつかの部を設け、参加者それぞれの強みを活かし、相互に補完しながら、部を中心とした活動を目指します。

活動内容：地域の話し合いによって策定された「地域まちづくり計画」に基づき活動します。計画は活動の進捗に合わせて適宜見直しをします。

## 地域コミュニティ協議会の組織イメージ図

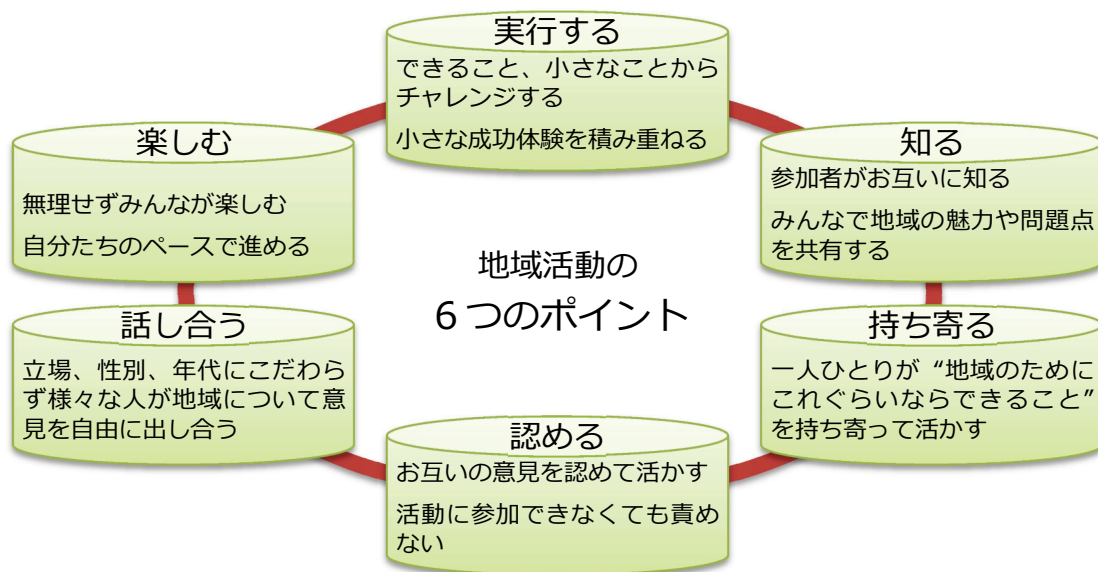


## (2) 地域活動をするうえで大切にしたいこと

この新しい地域コミュニティの仕組みは、志布志市において平成30年度から始まった新たな取り組みです。

この取り組みを進めていく中で忘れてはいけないことは、「地域に住む一人ひとりが主役」であるということです。一人ひとりが当事者意識を持って取り組めるように、皆さんの関心を集め、たくさんの方が参加し、お互いがコミュニケーションを取れるような工夫をしましょう。

最初はうまく進まないこともあるかもしれませんが、地域で活動する際には、次の6つの点に心がけてみましょう。



まずは新しい地域コミュニティへの参加者を増やし、その中で自治会未加入者も含めて広く参加を呼びかけていきます。そして、コミュニティの一員として、より「地域に住む一人ひとりが主役」となれるように、地縁による基礎的なコミュニティである自治会への加入を促進しましょう。



### (3) 新しい地域コミュニティの設立により志布志市が目指す姿

#### ① 自主、自立の地域づくり

地域の現状や課題を一番身近に感じていらっしゃるのは、その地域で生活されている住民の方々や、その地域で活動されている団体・企業等の皆様です。

- 地域住民、地域団体、学校、企業など複数の立場の方が地域コミュニティ協議会にもっと参加する
- 参加者同士がもっとつながる
- 地域と志布志市がもっとつながる
- 「自分たちのふるさととは自分たちで楽しみながら守る」

を基本に、地域で生活し活動されている一人ひとりが当事者となり、話し合いにより地域のことを地域全体で考え、自らの特徴を活かしながら、地域の課題を自分たちで解決します。

#### ② 補完性の原則

これまでには公共サービスは行政だけが担うものとして、サービスの範囲を拡大してきましたが、多様化が進む住民ニーズに対応するため、今後は、個人や家庭、地域でできることは自助や共助で解決し、それができない場合は、地域と志布志市との協働による対応を検討します。地域では解決できない課題については、公助として志布志市が補完、支援します。

#### ③ 地域分権の推進

地域が取り組んだ方が効果的、効率的なもの、身近なところで自ら判断し実施した方が良いものなどについて、現場に即した細やかなやり方で「自分たちのふるさととは自分たちで楽しみながら守る」ことができる社会の構築を目指し、事業と財源を地域に委ねる「地域分権」を進めます。